㈱イーエル・オカモト　品質環境壁新聞　3月号（第７９号）　発行日　：　令和5年3月1日（水）
発行者：検査課
掲示期限：令和5年3月31日（金）
掲示許可：総務課

なすびの花

ＰＤＣＡとＯＯＤＡ

２月の工場パトロールのテーマは、「ＰＤＣＡ」でした。

「なすびの花」でも何度か取り上げているテーマですが、改めてパトロールで…となると、ふわっとしたイメージでしか考えられないことに気付いたので、もう一度勉強し直しました。

調べていると、「ＯＯＤＡ」（ウーダと読みます）という言葉も同時に出てきたりしたので、こちらについてもご紹介したいと思います。

まずはおさらいとして、「ＰＤＣＡ」というのは、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）の頭文字でできている言葉です。

「計画」でまず目標を定め、それを実現するために何をするか、どうやって評価するのかを決定します。

「実行」は、そのままの意味で、「計画」を「実行」します。

途中であやふやになることがないように、また証拠にもなる、記録を残すことが大切です。

「評価」では、「実行」した結果の「評価」を行います。

「改善」で、一連の流れから行ってきている内容を改善します。

ここの「改善」から、さらに改善内容について、「ＰＤＣＡ」を繰り返していくことになります。

このように、修正しながら品質改善を実行していくのが「ＰＤＣＡサイクル」で、なかなか大変な作業となるので、とても時間がかかります。

一方「ＯＯＤＡ」とは、観察（Observe）、状況判断（Orient）、決定（Decide）、処置（Act）の頭文字となっています。

環境や変化について観察を行い、情報収集し、現状を把握します。

この後、把握した現状の観察の結果から状況を判断します。

ここで判断材料が足りなければ、最初の観察に戻ることもあります。

そして、具体的な行動を決定し、処置します。

最近実際に起こった出来事で分かりやすい事例を挙げてみましょう。

Ｏ：「天気予報の通り、夕方になって雪がたくさん積もってきてしまった！」

Ｏ：「これ以上積もったら、帰宅困難者が出る可能性がある！」

Ｄ：「まだ終業時刻までは早いけど、責任者に相談して、みんなの帰宅を促す必要がある！」

Ａ：「帰宅指示が出たから、みんな気を付けてすぐに帰宅してください！」

既存の業務フローの改善を繰り返す「ＰＤＣＡ」に対して、「ＯＯＤＡ」は、刻々と変化している、今現在の最善の行動のために行うものだという違いがあります。

どちらもうまく活用しながら、日々の業務に役立てていきたいですね。

働きアリの法則

先日、働きアリの生態についての動画を見て、大変面白かったので、ここでお話しようと思います。

よく人間にも当てはめて言われる、『働きアリの法則』（２：６：２の法則）というのは有名ですね。

１００匹の働きアリのうち２０匹は良く働き、６０匹は普通に働き、残り２０匹は働かずにぶらぶら遊んでいるという法則です。

良く働くアリ達が去ると、真ん中のアリ達の中からよく働くアリが出現し、ぶらぶら遊んでいるアリ達は、真ん中の６割が去ったら、普通に働くアリとなります。

それぞれの階層のアリ達が、環境の変化に順応し、進化していくということなんですね。

どの階層のアリ達も、全てが必要な存在だということです。

そしてこれは、女王アリが指示したりしている訳ではなく、働きアリ達が、自発的に役割分担をして行動しているということで、とても興味深い内容でした。

人間の集団でも同様のことが起こることが知られていて、例えば、発言しない人だけで会議をすると、その中からリーダーシップを発揮する人が現れて、ちゃんと発言が生まれていくようになります。

ただ、会社は成長していくという使命があるので、上位層の２割はさておき、特に標準層の６割は、上位層の２割を目指して、切磋琢磨する必要がありますね。

さて、皆さまはどこの位置を希望しますか？